

母校の躍進を期待する

同窓新報

題字・故 上野慧賢先生

駒大高校同窓会 会報

発行所
駒沢大学高等学校
同窓会

東京都世田谷区上用賀1丁目
〒158 TEL.3700-6131(代)
振替口座 東京 8-6188

所感・平成五年

会長 秋山彰三



(一)
この頃の日本人の顔は良くも悪くもなってきた。
若い男がマンガを読んでいる顔には全く知性がない。中高年の男の顔にも味が無くなった。とくに中年の女性が目立つ。顔をして

おしゃべりしている、恐いもの知らずの姿には困ったものである。
昔の女性には「つつまし

さ」ということは、自己規制の一つである。このようなたたき無くなったのは、最近の悪い傾向である。
なぜかこのようになったのかと考えると、これは自由平等を絶対視した戦後の教育によるものではないかと

思われる。
「つつまし」とか「分相応」ということは、自己規制の一つである。このようなたたき無くなったのは、最近の悪い傾向である。
なぜかこのようになったのかと考えると、これは自由平等を絶対視した戦後の教育によるものではないかと

思われる。
「つつまし」とか「分相応」ということは、自己規制の一つである。このようなたたき無くなったのは、最近の悪い傾向である。
なぜかこのようになったのかと考えると、これは自由平等を絶対視した戦後の教育によるものではないかと

思われる。
「つつまし」とか「分相応」ということは、自己規制の一つである。このようなたたき無くなったのは、最近の悪い傾向である。
なぜかこのようになったのかと考えると、これは自由平等を絶対視した戦後の教育によるものではないかと

思われる。
「つつまし」とか「分相応」ということは、自己規制の一つである。このようなたたき無くなったのは、最近の悪い傾向である。
なぜかこのようになったのかと考えると、これは自由平等を絶対視した戦後の教育によるものではないかと

思われる。
「つつまし」とか「分相応」ということは、自己規制の一つである。このようなたたき無くなったのは、最近の悪い傾向である。
なぜかこのようになったのかと考えると、これは自由平等を絶対視した戦後の教育によるものではないかと

将来へ向けて

名誉会長 羽住奎



開校以来四十五年、同窓生も一万六千六百四名を数え、社会各方面で活躍され、また一割近くの方が学生として勉学に励んでいる。本校草創期のことを考えると感無量の思いがする。現在

在の用賀に移って既に二十七年が経ち、毎年五百名余の入学を維持し、平成四年度は、一千四百九十七名が生徒として勉学に励んでいる。本校草創期のことを考えると感無量の思いがする。現在

まず、都内公立中学卒業生数は、昭和六十二年の十五万六千五百人を最高に、平成五年には十一万二千五百人と二八%（約四万四千

人）減少し、十一年には約九万人・十八年には約七万人まで減少すると予想されている。単純に計算して、四百人規模の高校が百校から二百校位廃校に追い込まれる数字になる。本校が併設中学を持たない男子高校であるため、近い将来共学校に移行すべきであると考える。

次に公立諸学校が、教育改革として、また生徒児童のゆとり確保を主眼に、既に五日制を要請的に実施しているが、私立学校も行政側の強い協力要請があり、早晚実施しなければならぬ状況にある。しかし私学の教育理念・独自性を維持するために、多くの諸条件の解決を先行することが必要であろう。例えば指導要

領の見直し、大学受験の改善・学校行事の再検討等、課題が山積している。平成六年度教育課程改定を機に本校も完全実施には至らないが、苦慮しながらも五日制を実施の方向で現在検討を重ねている。いずれにしても学校五日制の目的が何かを行政サイドが明確に示し、新しい教育観・学力観の確立と創造が急務である。

昨今偏差値問題が急浮上し、その利用や提供について問題化しているが、それは長年必要悪のような扱いの上、容認されてきた。偏差値を絶対視すべきではないが、さまざまな角度から便利であり、信用され、有用なものとして一部参考にして来たことは事実である。

その弊害を論ずる一方、中学生の進路決定に大きく作用したことも事実である。今後偏差値に代わりうる判断材料を検討していく必要がある。

平成五年度より駒澤大学への推薦制度が大きく変わり、学部の意向により多様な形態が生じている。定員にやや増加が見られたものの、学部学科によっては、一般受験生と同様に受験しなければならないようになった。このことは現場にあっての指導に困惑と生徒の不安があるが、対策を講じつつ指導に当たっている。附属生の一本化した推薦制度を根拠強く要請して、きたい。

姉妹校である岩見沢・苫小牧両校の進学希望者も増加の傾向にあり、本校生の意

見順風満帆のように思われるが、学校教育を取り巻く状況は、ご承知のように制度上の問題、社会的要因や要請等多くの課題が提起されており、また学内の課題も、早急に鋭意検討し解決すべきことも決して少なくない。紙面をお借りして、幾つかの課題について所感を述べ、本校の現況報告とする。

まず、都内公立中学卒業生数は、昭和六十二年の十五万六千五百人を最高に、平成五年には十一万二千五百人と二八%（約四万四千

人）減少し、十一年には約九万人・十八年には約七万人まで減少すると予想されている。単純に計算して、四百人規模の高校が百校から二百校位廃校に追い込まれる数字になる。本校が併設中学を持たない男子高校であるため、近い将来共学校に移行すべきであると考える。

次に公立諸学校が、教育改革として、また生徒児童のゆとり確保を主眼に、既に五日制を要請的に実施しているが、私立学校も行政側の強い協力要請があり、早晚実施しなければならぬ状況にある。しかし私学の教育理念・独自性を維持するために、多くの諸条件の解決を先行することが必要であろう。例えば指導要

領の見直し、大学受験の改善・学校行事の再検討等、課題が山積している。平成六年度教育課程改定を機に本校も完全実施には至らないが、苦慮しながらも五日制を実施の方向で現在検討を重ねている。いずれにしても学校五日制の目的が何かを行政サイドが明確に示し、新しい教育観・学力観の確立と創造が急務である。

昨今偏差値問題が急浮上し、その利用や提供について問題化しているが、それは長年必要悪のような扱いの上、容認されてきた。偏差値を絶対視すべきではないが、さまざまな角度から便利であり、信用され、有用なものとして一部参考にして来たことは事実である。

その弊害を論ずる一方、中学生の進路決定に大きく作用したことも事実である。今後偏差値に代わりうる判断材料を検討していく必要がある。

平成五年度より駒澤大学への推薦制度が大きく変わり、学部の意向により多様な形態が生じている。定員にやや増加が見られたものの、学部学科によっては、一般受験生と同様に受験しなければならないようになった。このことは現場にあっての指導に困惑と生徒の不安があるが、対策を講じつつ指導に当たっている。附属生の一本化した推薦制度を根拠強く要請して、きたい。

姉妹校である岩見沢・苫小牧両校の進学希望者も増加の傾向にあり、本校生の意

見順風満帆のように思われるが、学校教育を取り巻く状況は、ご承知のように制度上の問題、社会的要因や要請等多くの課題が提起されており、また学内の課題も、早急に鋭意検討し解決すべきことも決して少なくない。紙面をお借りして、幾つかの課題について所感を述べ、本校の現況報告とする。

まず、都内公立中学卒業生数は、昭和六十二年の十五万六千五百人を最高に、平成五年には十一万二千五百人と二八%（約四万四千

人）減少し、十一年には約九万人・十八年には約七万人まで減少すると予想されている。単純に計算して、四百人規模の高校が百校から二百校位廃校に追い込まれる数字になる。本校が併設中学を持たない男子高校であるため、近い将来共学校に移行すべきであると考える。

次に公立諸学校が、教育改革として、また生徒児童のゆとり確保を主眼に、既に五日制を要請的に実施しているが、私立学校も行政側の強い協力要請があり、早晚実施しなければならぬ状況にある。しかし私学の教育理念・独自性を維持するために、多くの諸条件の解決を先行することが必要であろう。例えば指導要

領の見直し、大学受験の改善・学校行事の再検討等、課題が山積している。平成六年度教育課程改定を機に本校も完全実施には至らないが、苦慮しながらも五日制を実施の方向で現在検討を重ねている。いずれにしても学校五日制の目的が何かを行政サイドが明確に示し、新しい教育観・学力観の確立と創造が急務である。

昨今偏差値問題が急浮上し、その利用や提供について問題化しているが、それは長年必要悪のような扱いの上、容認されてきた。偏差値を絶対視すべきではないが、さまざまな角度から便利であり、信用され、有用なものとして一部参考にして来たことは事実である。

その弊害を論ずる一方、中学生の進路決定に大きく作用したことも事実である。今後偏差値に代わりうる判断材料を検討していく必要がある。

伝教大師は「山家学生式」で「すなわち道心ある佛子、西に菩薩と称し、東には君子と号す、悪事を己に向かへ好事を他に与え、己を忘れ他を利するに慈悲

の極みなり」と述べられ、忘己利他の心が大事であると教えられた。自由・平等のみを教えられ博愛（慈悲）を忘れた現在の日本人は「忘己利己」である。

私は日本人の顔が悪くなったと云ったが、しかし一心に仕事をしている人の顔は美しいと思っている。それはその人がこの仕事をうまく仕上げ、人に喜んでもらおうとの気持ちで仕事に没頭しているからである。この心境こそまさに「忘己利他」ではないだろうか。

同窓会が今日まで、どうやら運営されてきたのも、役員諸氏が「忘己利他」の気持ちで同窓会の仕事をしてくださったからである。私自身、健康で仕事ができるということは、大きなものに守られているからだと思っており、今後も少しでも「忘己利他」の気持ちを持って仕事を続けたいと思っている。とりとめのない文章であるが、同窓会を支えてくれた皆様へ感謝の意を表し筆を置く次第である。

昭和と三年開校の本校にあって、その創成期に本校教育に関わった教職員三名の殆んどは駒大教職員の業務であり、専任者六名も二、三年の間に他に転出してしまつたので、白浜先生は本校の創成・発展とともに歩まれた唯一の方であります。第一期から第四期の同窓生、一七〇七九人の全員が警咳に接し、お名前を在り上げているのは、白浜先生ただひとりでありま

す。将来ともに本校の歴史

白浜正幸先生は、平成三年五月九日に満六五歳の誕生日を迎えられ、平成四年三月三十一日を以て、本校を定年退職されました。昭和四十四年四月にご就任以来、四十四年間に亘るお勤めを無事に全うされて定年を迎えられたことは、誠にめでたいことであり、心からお慶びを申し上げます。

先生は、鹿児島県出水郡三笠村のご出身であり、県立出水中学校、日本体育専門学校体操科で学ばれたのち、三笠村協本国民学校（小学校）、日本体育会（高等学校）を経て、本校保健体育科専任教諭として就任されました。

先生の授業で、姿勢、行動、肢体の運動に正確と機敏を厳しく求め、強い掛声で指導されてきました。教科指導の他には、生活指導、校外学習、保健体育行事などの分掌を歴任され、事務長もお勤めになりました。特に生活指導において、新設校の指導体制を形成することに大変なご苦労をいただきました。戦後期の社会で青少年の生活規範が混乱している中、青少年の健全育成に情熱を以て取

り組まれました。ことの是非善悪のけじめを強く求める説論は、先生の正義感の発露であり、訓育の情熱は、時には秋霜烈日の叱責となり、時には根気強く綿密な説論となつて諸君を見舞つたこと、忘れ得ぬ人も多いことでありま

す。また、生徒募集における先生のご苦労も忘れてはならず、感謝申し上げます。開校後の数年間は、入学生徒数の確保に苦しんだ時期であり、廃校問題も話題となりました。生徒・教員・教員一丸となつて存続の努力がなされましたが、そのための生徒募集は、まさに必死の活動でありました。人脈を頼り、あるいは飛び込みで中学校を巡って自転車走らせ「苦学は、せつない苦学であつた」との拝察いたします。

かように、本校校史に大きな足跡を残された先生をお送りすることになりました。先生には、ますますご健勝にお過ごしください、かねてより望んでおられました世界見聞の楽しみを満喫されるようお祈り申し上げます。（和田實正）

白浜正幸先生は、平成三年五月九日に満六五歳の誕生日を迎えられ、平成四年三月三十一日を以て、本校を定年退職されました。昭和四十四年四月にご就任以来、四十四年間に亘るお勤めを無事に全うされて定年を迎えられたことは、誠にめでたいことであり、心からお慶びを申し上げます。

先生は、鹿児島県出水郡三笠村のご出身であり、県立出水中学校、日本体育専門学校体操科で学ばれたのち、三笠村協本国民学校（小学校）、日本体育会（高等学校）を経て、本校保健体育科専任教諭として就任されました。

先生の授業で、姿勢、行動、肢体の運動に正確と機敏を厳しく求め、強い掛声で指導されてきました。教科指導の他には、生活指導、校外学習、保健体育行事などの分掌を歴任され、事務長もお勤めになりました。特に生活指導において、新設校の指導体制を形成することに大変なご苦労をいただきました。戦後期の社会で青少年の生活規範が混乱している中、青少年の健全育成に情熱を以て取

り組まれました。ことの是非善悪のけじめを強く求める説論は、先生の正義感の発露であり、訓育の情熱は、時には秋霜烈日の叱責となり、時には根気強く綿密な説論となつて諸君を見舞つたこと、忘れ得ぬ人も多いことでありま

す。また、生徒募集における先生のご苦労も忘れてはならず、感謝申し上げます。開校後の数年間は、入学生徒数の確保に苦しんだ時期であり、廃校問題も話題となりました。生徒・教員・教員一丸となつて存続の努力がなされましたが、そのための生徒募集は、まさに必死の活動でありました。人脈を頼り、あるいは飛び込みで中学校を巡って自転車走らせ「苦学は、せつない苦学であつた」との拝察いたします。

かように、本校校史に大きな足跡を残された先生をお送りすることになりました。先生には、ますますご健勝にお過ごしください、かねてより望んでおられました世界見聞の楽しみを満喫されるようお祈り申し上げます。（和田實正）

白浜正幸先生は、平成三年五月九日に満六五歳の誕生日を迎えられ、平成四年三月三十一日を以て、本校を定年退職されました。昭和四十四年四月にご就任以来、四十四年間に亘るお勤めを無事に全うされて定年を迎えられたことは、誠にめでたいことであり、心からお慶びを申し上げます。

先生は、鹿児島県出水郡三笠村のご出身であり、県立出水中学校、日本体育専門学校体操科で学ばれたのち、三笠村協本国民学校（小学校）、日本体育会（高等学校）を経て、本校保健体育科専任教諭として就任されました。

先生の授業で、姿勢、行動、肢体の運動に正確と機敏を厳しく求め、強い掛声で指導されてきました。教科指導の他には、生活指導、校外学習、保健体育行事などの分掌を歴任され、事務長もお勤めになりました。特に生活指導において、新設校の指導体制を形成することに大変なご苦労をいただきました。戦後期の社会で青少年の生活規範が混乱している中、青少年の健全育成に情熱を以て取

り組まれました。ことの是非善悪のけじめを強く求める説論は、先生の正義感の発露であり、訓育の情熱は、時には秋霜烈日の叱責となり、時には根気強く綿密な説論となつて諸君を見舞つたこと、忘れ得ぬ人も多いことでありま

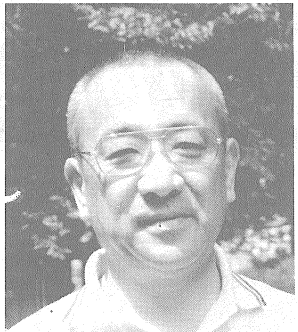
す。また、生徒募集における先生のご苦労も忘れてはならず、感謝申し上げます。開校後の数年間は、入学生徒数の確保に苦しんだ時期であり、廃校問題も話題となりました。生徒・教員・教員一丸となつて存続の努力がなされましたが、そのための生徒募集は、まさに必死の活動でありました。人脈を頼り、あるいは飛び込みで中学校を巡って自転車走らせ「苦学は、せつない苦学であつた」との拝察いたします。

かように、本校校史に大きな足跡を残された先生をお送りすることになりました。先生には、ますますご健勝にお過ごしください、かねてより望んでおられました世界見聞の楽しみを満喫されるようお祈り申し上げます。（和田實正）

白浜正幸先生ご退職

ご挨拶

副会長 大谷 康 憲



新しい年を迎え、会員各位の御理解と御協力により円成した次第です。一年間、秋健勝また御清福のことと衷心より慶び申し上げます。ながら、大役をつとめさせて頂きました。その間の皆様の御支援と御教示、本会創立四十周年記念総会が盛大かつ賑々しく挙行され、三期の有志が大体月一

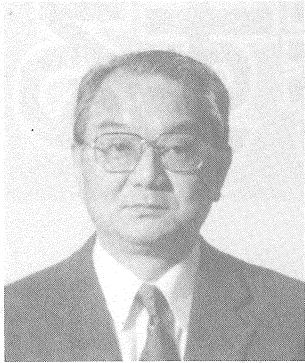
な気もいたします。これから更に同窓生の数が増加することは言うまでもありません。今後益々会員組織の充実や連絡の密接化等を計り、一室に会する機会を多く作って、会員同志の親睦と交流を深める必要があると思います。さらには会の運営方針に御意見、御感想等をどしどし私共まで寄稿願えれば幸甚に存じます。

時代の変遷にともなう様々な影響をうけつつも、連綿と続いているのが同窓会の実体でありましょう。伝統と歴史をもつ我が母校を心のふるさととして愛し、同窓会に対し、深く御理解をいただきたく思います。最後に会の運営発展のために皆様方の御協力、御支援をお願いいたしまして諸氏ならびに関係各位の益々の御健勝と御活躍を祈念申し上げる次第でございます。

合掌

不惑・同窓会

同窓会副会長 田上 太 秀



駒沢大学高等学校同窓会は昨年創立四十周年を迎えました。これを記念して盛大な記念祝賀会を催し、多くの同窓生諸氏が時間を経つのも忘れて思い出話にひとときをすゝされたことは前号の「同窓新報」で報じられました。

自信を以て示すべき道である。というものを打ち出して行かなければなりません。同窓性諸氏は年の差があり、先輩後輩の関係であり、同窓会のメンバーであることにおいて平等であります。「不惑」の年代に入ったわが同窓会をより発展させ、定着した事業を持続させて行くには同じ学び舎で学んだという共学の心と母校への愛着とを基盤にした強い絆が必要です。同窓生諸氏がいま一緒に頑張って母校について、そして同窓会について考えていくときが来たと思います。四十年といえ、人はそ

永年勤続者表彰

平成四年度の役員総会席上にて、十二名の教職員が、永年勤続(三十年・二十年・十年)の感謝として同窓会より記念品を受けられました。

三十年

河村 光司



同窓生諸賢にはご壮健にてそれぞれの持場でご精励のこと、思います。

歳月は人を待たず。三十年を振り返ると、感慨深いものがあります。桃クリ三年、カキ八年、梅はオスオス十三年、ナシはユルユル十五年、ユズは大ばか十八年、ミカンの間抜け二十年。開花結実するまでこれだけの年月が必要だと言われている。教員生活三十年は何んな果実を思いうかべればよろしいか。今さら接ぎ木もできませんので、たとえこれから先の位頭張れるか紆余曲折の人生であつても、生徒は神の子、仏の子と思えば腹を立てることも、怒ることもない。この道で全力を尽くしてよい実を成らせたいものです。やはり一番心に残っている卒業生は私の最初の教え子達。昭和四十年に巣立った生徒達。平成七年で満三十年。会社なら中堅幹部として活躍している頃か。

増田 為三
三十周年の思い出について書くように云われましたが、二十周年、十周年につ



いでもなたが書かれるようです。勤め始めてから三年間ぐらゐの当時の生徒諸君と過ごした事を思い出して見ました。丁度、高校が渋谷校舎から駒沢大学の敷地に新しく建てられた高校の校舎(現七号館)に移った時で、生徒数が急に増えた事もあり、八人ほどの教諭が採用され、全員一年生の担任となりました。各担任が模造紙に自分のクラスの生徒の名前を書き入った所に張り出しましたが、私はマジックペンで、割り箸をちぎって並べたような字しか書けなかったもので、他のクラスの上手な字を感じて見ていたうちに新入生がどんどん入って来て教室はたちまち満員になりました。二年になる時に特別クラスが一つ出来たので、そのクラスに入った数人を除いた生徒諸君とは、卒業迄担任としてお付き合いすることになりました。最初黒板に自分の名前を書いて、自己紹介したように思いますが何を話したのか覚えていません。オリエンテーションが終るとすぐ授業が始まりました。朝のショートホームルーム、仏教の先生が交代で、五観の偈を唱えた昼の食事のときや、終礼のホームルームで色々話をしました。囲碁将棋部の顧問になったので放課後は教室でクラブ活動に参加しました。五月の遠足では陣馬山に行きましたが、若葉

の緑が印象的でした。一年生は七月の二十日頃より林間学校が富士吉田市に於て開かれました。二つの班に分かれて、一班が最初、二班が入れ代りに出発しましたが、一班は帰途に二班と出合つて、対面式を行い、始業の日には、校舎から絵を描いたように山が美しく姿を見せた。七草に門松をとるのに、学校では玄關の入口にやわらかな太陽の日差しを浴びて、門松が生徒の登校を祝うかの如く置れている。



りはじめ、午後は大雨と。翌八日は晴れて、始業の日には、校舎から絵を描いたように山が美しく姿を見せた。七草に門松をとるのに、学校では玄關の入口にやわらかな太陽の日差しを浴びて、門松が生徒の登校を祝うかの如く置れている。

講堂の仏壇には、鏡餅が供えられ新年式が行なわれた。例年かわらぬ学校の始業である。歳月の流れは、光陰箭の如しと言われる如く早いものである。私は、本年三月三十一日付で本校に奉職して三十一になるが、退職することにした。回顧三十年は、瞬時の如く思える。奉職した昭和三十七年は、渋谷から校舎が駒沢大学の中に移転。

四月一日私の最初の仕事は、机、椅子、図書室の本等の運搬で大変に疲れた。十日の入学式での最初のクラス担任として、クラスの諸君との出会い、昭和四十年用賀への校舎の移転、何年か前の卒業記念樹も年輪をまわして、校舎にマッチしてきた。いろいろ思うと、それぞれに思いが深い。同窓の皆様御多幸を祈念する。

伏谷 義知



を任せられ、西も東もわらないのにもう担任として取り組んだ。これは大変というので、なんとか頑張らねばと何もわかんないが、とにかく懸命に無我夢中で取り組んだというのが正直なところであつた。その当時、自分にあるのは、若さだけである。が、これがあつたから、なんとかやれたのであろう。が一方では、毎日、反省ばかりくりかえす日々の連続であつた。少し年輪を重ねてゆくにつれて、辺りのものが見え、少し遠くへ視点が見え、少しくなると、時にはじつくりと考える事に処するにしようという教育に対する萌芽のようなものが生まれたような気がした。何の仕事もそうだが、日々が戦いのようなもので、それは、そのまま自分との戦いでもある。自分の居ることを信じて、何事にも実らないところに苦しさがあり、やりがいがあるものであろう。人間は、反省の後には、新たな対応や新たな自己の確立を生むべく努力しなくてはならない。かく言う私が、今までどれだけの努力をしたか、全く赤面の至りである。が今後にあつては、今まで積み重ねてきたさまざまな体験を基盤に、自分の出来る地道な歩みをみだし、聊かでも現場の中に寄り添うものが、みだせればよいと思う今日この頃である。会員の皆様益々のご発展を願つてやみません。

幸前 芳孝

昭和三十七年四月、渋谷校舎から大学構内(現七号館)に移転し、第一次ビーブームの時に育った生徒達が入学、学年十クラスという大世帯になり、真に新しい学校として生まれ変わ



ろうという時期に、新米教師として奉職させて頂くことになった。当時は東京五輪の二年前で、駒沢オリンピック公園建設のため周辺が大変騒々しかったように記憶している。学校行事としての、臨海・林間学校や体育大会・修学旅行等々、忘れることのできない思い出がある。特に体育大会は、今と違つて(現在は陸上競技大会)教員・生徒合同の手作りの運動会という趣きがあつたように思う。マスゲーム・棒倒し、民謡の「花笠音頭」等、微力ながらも必死に指導したことが今でも脳裏に焼き付いている。若く、血気盛んな年頃で、生徒達とも常に競い合うようなところもあり、弱味を見せまいとして、よく衝突していたように思う。当時の生徒達は結構遊び人や悪童が多く、苦勞をさせられたものだが、反面素直で潔いところもあり、気持ちよく接することができ、今でも各々の顔が思い浮かぶ程である。

今では、四十代半ばを過ぎ皆一角の人物となり、社会のために貢献し、又、良き家庭人として幸せな人生を歩んでいることだろうと推察している。皆の元気な顔を拝見しながら一献酌み交わしたいと思う此頃である。

二十一年

小林 惣八



「光陰矢の如し」通り一遍の言葉なれど改めて思い

☆《駒大高校の今》

生徒募集・入試の現状について

神谷道倫

母校に対する思いは、何らかの形で誰しもの心の中にあるものであろうが、それが課題のごとき話題になると、同窓生の思いとどれほどの接点があるのかわからず、少々疑わしくもある。しかし一方、我が子が学校進学を期するようという年齢の人々にとっては、相当な関心事であるということでもあろう。これは、我が子の将来を見こしての進路選択に関わる点という点で、夢ある話題ということではなくてはなるまい。

ただ、さまざまな進学説明会に出席して受験生及びその父母等に接して感ずることは、学校選択に際しての最大の関心事は、結局学力を中心とする入学の条件に集約されてしまうことである。教育方針に魅力をおぼえても、入学できないければ何にもならないという極めてリアルな受けとめ方になるのは事の性質上やむをえぬということになるのである。

同窓生の場合は特に本校のことは既によく知っているものである。マスコミ等を通して知り得た受験の諸情報の中で、母校が具体的にどのような方針のもとに入学試験を実施しているのかその情報そのものを知らないということになるにちがいないが、今ここのでその詳細な情報を提供するつもりはない。またその必要もないだろう。必要ある人は旧担任などを通して問い合わせれば済むことでもある。また、明年度以降の本校

入学を希望するその子弟は、本校にとってかけがえのない存在であるということを確認しておきたい。従って本校を第一志望とする同窓生の子弟について、一定の条件のもとに優先する現行の制度は、今後も継続していくはずであるし、また継続させていかねばならないものと思ってもいい。

同窓生の年齢構成の上から、今後益々増加するであろう子弟が、皆あつて応募、入学されることを念願するとともに、母校そのものも発展を続けて、その期待に応えるような学校であり続けることが要請されるだろう。

知らされた。年齢相応にやりたいこともあつたらうにただ無為に月日を過ぎた感がある。フツと後ろを振り向いた時その痕跡を止めない。今まで何を考え何を行動してきたのだろう。『行学一如』まさに幻か。

道理をわきまき教鞭をとってきた20年、いかほどの同窓諸君に感銘を与えることができたのだろうか。自分自身との闘いの20年だったのかも知れない。

多様化・個性化の時代といわれて久しい。今、学校教育は大きな過渡期を迎えている。一人として今後の生き方を問われる時期でもある。公私共に納得のゆく人生を歩んでゆきたい。

最近の本校の進学状況について

馬場捷美

本校も創立以来四十五年を過ぎ、一万有余の卒業生を出し、同窓会も、益々隆盛になって参りました。最近では卒業生の子弟の本校への進学希望者も多く、母校への関心の深さを感じます。高校入試については皆様がご存じのとおり卒業生子弟・兄弟については特別な配慮がありますが、後は他の生徒と同じように三年間を過ごす訳です。

さて、三年間の内に将来の進路を考えることになり、基本的にはほとんどの生徒諸君が大学へ進学を希望します。昭和四十年代までに本校を卒業された方々は、ご存じのように、駒沢大学へは希望すればほとんど入る時代でした。ところが、昭和五十年代に入り高度経済成長・首都への一局集中化が始まると同時に東京周辺の私立大学は

うなぎ登りに難易度が高くなりました。平成五年度入試より推薦方式が変わり、ちなみに現三年生は駒大のI部に約六〇％、II部に約一五％の計七五％程度が推薦されました。後は、他大学の推薦、専門学校、就職等に五二〇％、五一〇％が浪人といったところです。

いろいろ問題は山積しておりますが、我々、教職員としては、生徒の希望するところへ進学できるように努力していくつもりです。

◎入試日程

入学試験 2月18日
合格発表 2月19日
出願期日 1月末より

例年右記の通り行なわれます。本校を第一志望とする子弟がおられましたら、同窓会事務局(浦)までご相談下さい。



井上 保宏



宮 健二

「光陰矢の如し」とはよく言われる言葉であるが、本当に歳月の流れの早さには驚いてしまう。

昭和四十七年、縁あって本校にお世話になってから瞬く間に二十年が過ぎ去ってしまった。勤続二十年の感謝状と記念品を手に、感無量である。

この二十年間、夢中で過ごしてきたので、自分でどれだけ本校の教育に貢献できたかは疑問であるが、これからの一日一日を、本校の発展と教育に大いに寄与するべく、気持ちを新たにしている次第である。今後共、よろしくお願い致します。

私の生れた所は大田の下町、海苔の産地で有名な大森である。この一角に江戸の昔、将軍様が鷹狩をしたという梅屋敷がある。現在は梅の木数本を従えた「石碑」が、ここが梅屋敷だと主張しているのと、その名を付けた近くの超過密商店街が残っているだけである。日本映画発祥の地「蒲田キネマ」もこのすぐ近くに「キネマ通り」として名を残しているが全然その面影などありはしない。

この梅屋敷に小さなケーキ店「シェークドール」が出来て二十年目になった。もとは頑固親父が駄菓子屋を商うひなびた店に過ぎなかった。ところがこの息子に洋菓子のセンスがあつたと見えてケーキ屋を始めたりや否や、あつとやうに流行りだした。つい最近までそこら辺りの洋菓子屋より余程大きめの、旨い、まことに旨いシュークリームを100円で売り続けていた。(最近120円になってしまったが)

オーストリアのウィーンには、「ザッハトルテ」なき、本当に教員をやっている者、電話をくれる者、結婚式の披露宴に招待してくれる者……など様々な形で卒業後も担任を忘れずに接してくれる者がいます。

社会人として立派に活躍してくれている彼等を見ると、き、本当に教員をやっている者があつたという実感を味わうことができます。

教員として二十年、いままでもやってきた教育実践でよかったのか、どれだけ努力したのか、また、学校に

ことだ。日本でもちよつと気の利いた店では必ず手にはいる。(日本ではどこでもザッハトルテを冠した商標で売り出されているが……許可は下りているのか?)

例の店でも1400円で手に入れることが出来る。軽く10切は取れるからお買い得の上に、なんとも至福な一時を過ごせるので、これはだんぜんお奨めできる逸品だ。

自由が丘の中国料理「南国飯店」はこの街でも老舗の一つであるが、このランチも安い割にはボリューム、味、サービスの三拍子が揃つた、お奨め品である。「安くて、旨くて、気どりがいい」これが私の店選びの原点である。安くできるためには、どこでも、誰にでも手にはいるとありふれた材料でなければならぬだろう。(手に入らないものは安いわけがない)逆に言えば、誰でもごく普通に食べているものは安いのとみてよいのではなからうか。皆が食べているが故に誰にでも、旨い不味いが簡単に分かってしまうのである。

これがひとたび職人の手にかかれば「おつ」と声が出てしまうような一品に変わるとき、思わず拍手をしてしまいたくなってしまう。同じ材料で良くここまで仕上げたものだ!!

食べておしまい、菓子や料理が、いつまでもその人の心に残り生き続ける——ここにプロとアマの違いがありそうだ。——「食べながらこれのかたがたに「教育」の神髄を教えるにしている気がしてならない。(二十年チョークを持ち続け、生徒を寝させても、うならせない仕事師として、少々濃厚なカカオの香りと渋みの利いたこの菓子は酒飲みにも愛されているとの

「挫折の三十代」「墮落

の程度を貢献をしたのかたのは、二月の小雪の降る日でした。玄関ロビーの「行学一如」の大きな文字が目についた。さすが仏教主義の学校だな……と思つた。これが、その時の印象であつた。それから二十年、「月日のたつのは早いもの」「光陰矢の如し」である。

私の生れた所は大田の下町、海苔の産地で有名な大森である。この一角に江戸の昔、将軍様が鷹狩をしたという梅屋敷がある。現在は梅の木数本を従えた「石碑」が、ここが梅屋敷だと主張しているのと、その名を付けた近くの超過密商店街が残っているだけである。日本映画発祥の地「蒲田キネマ」もこのすぐ近くに「キネマ通り」として名を残しているが全然その面影などありはしない。

この梅屋敷に小さなケーキ店「シェークドール」が出来て二十年目になった。もとは頑固親父が駄菓子屋を商うひなびた店に過ぎなかった。ところがこの息子に洋菓子のセンスがあつたと見えてケーキ屋を始めたりや否や、あつとやうに流行りだした。つい最近までそこら辺りの洋菓子屋より余程大きめの、旨い、まことに旨いシュークリームを100円で売り続けていた。(最近120円になってしまったが)

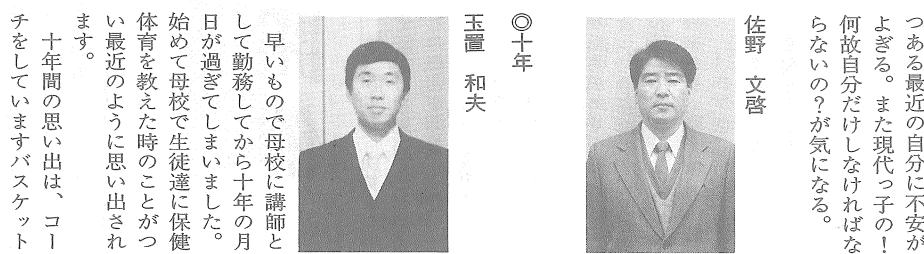
オーストリアのウィーンには、「ザッハトルテ」なき、本当に教員をやっている者、電話をくれる者、結婚式の披露宴に招待してくれる者……など様々な形で卒業後も担任を忘れずに接してくれる者がいます。

社会人として立派に活躍してくれている彼等を見ると、き、本当に教員をやっている者があつたという実感を味わうことができます。

教員として二十年、いままでもやってきた教育実践でよかったのか、どれだけ努力したのか、また、学校に

つある最近の自分に不安がよぎる。また現代っ子の!何故自分だけしなければならぬの?が気になる。

佐野 文啓



玉置 和夫



同窓会便り 進士 徹(25期D組)

生まれも育ちも東京の私が、現在福島県鮫川村という所で友人家族と共に「ふるさと留学、竹とんぼ学園」を開設し山村での田舎生活をして五年目になりました。

村の廃校になった小学校を借りて、都会の子供達二十八人(小学三年、高校三年生まで)と大家族の生活をしていきます。後ほどこのことは詳しくふれたいと思います。

私は、昭和五十年三月に卒業いたしました。高校生生活は、実に有意義で私の人生においても、重みのある「とき」でした。

一年の担任は若月先生、二、三年時は幸前先生でした。お世話になりました。

部活動は吹奏楽部に所属してました。三年生のときに初めて「吹奏楽コンクール」に出場し、Bクラスではありましたが、「金賞」をとることが出来ました。

あのときの喜びは今も鮮明に私の心の中に焼き付いています。



みんな、一つの音楽を半年もかけて創り上げた経験は貴重なものでした。

ただ単に決められた曲を演奏するのではなく、目標に向かって切磋琢磨することの大切さも知りました。

そして、なにより嬉しいことは、このような吹奏楽部の伝統を後輩から後輩へと、受け継がれ盛んに活動していることです。

益々の発展に期待しております。

大学では、社会福祉を専攻し、昭和五十四年に卒業と同時に静岡県浜岡町にある「ねむの木学園」(肢体不自由児療養施設、園長宮城まりこ)に就職し、九年間生活指導員をやっていました。

二十六歳のときに結婚。今は小三の長男、小一の長女、四歳の次女の三人の子がおります。

昭和五十八年に長男が誕生し、一歳を迎えようとしたときに風邪を引いてしまったドクターから「心臓の病気」があると知らされたのです。

このことが、竹とんぼ学園を開設する私のきっかけでもあります。

親の責任として、都会の汚れた空気を吸うよりも、山間部のきれいな空気と新鮮な野菜を食べることで、少しでも健康体に近づければと考え、思い切って前の職場を退職したのです。

ここで、竹とんぼ学園についてふれていくことにします。

都会育ちの二十八人の子供達との大家族の生活をしていますが、関東が中心で山形から愛媛までいろいろなところから竹とんぼ学園に集まりました。

昭和六十三年秋から開園準備にかかり、土地さがしから始まりました。

五十四の町村に手紙を書きいちはやく返事をくれたのが今の鮫川村だったので、村長さんが迎え入れてくださり、また地域の方の理解を得られ、そして廃校になった小学校を借りることが出来ました。

昭和六十三年四月に開園。以来五年がたちました。都会育ちの子が親元を離れて、大家族の生活をしながら、昼間は鮫川の子と同じ学校で勉強をして、お互いに良いところを刺激しあひながら元気に通っています。

本人が、ここを希望した子だけに限っているので、

みんな元気がいいです。都会の今、子供のおかれている環境は、実に複雑です。

学校が終われば塾や習い事に忙しい、遊びといったテレビゲームが中心です。更に遊ぶにも電話で予約しているのです。

自分から遊びを考えだすことは、ほとんどありません。

子供のときに、体を使って遊ぶことはとても大切です。自然と体も健康になり、人と人とのつきあいかた、道徳も学んで行くものなのです。

それが今とても欠けているのです。十分遊びが足りないから、子供達に様々な諸問題が降りかかっているのです。

これは大人の責任です。竹とんぼにきた子供達はずっと自然に囲まれた所で遊びたいと思う子です。

また親のほうは、都会だけでなく一年ないし二年間山村での生活が貴重であると考え、または両親ともに都会育ちで田舎がない家庭であったり……。

「ふるさと留学」と名付けたのは、竹とんぼ学園を卒業しても家族ぐるみで末永く、ここがいつ帰って来ても自分達の「ふるさと」と言える所にしたいと願ったからです。

食べ物を粗末にしたり、こぼしても平気でいた子が、食べ物に感謝する気持ちが生まれ、それが物を大切にすることに繋がります。さらには人の気持ちを大切に考えるようになるのです。

物が豊富にある現在ですが、この気持ちがある今の世間にはなさすぎるのではないのでしょうか。少なくとも、竹とんぼ学園にきた子供達は、そのことに気付き始めるのです。

うれしくも、卒園生達に年に一度二度は「ただいま」と言って帰って来ます。

また、竹とんぼ学園では田や畑もあります。稲作りに毎年挑戦しています。

「完全無農薬」で育てているために、まさに雑草取りとの戦いです。

家に居れば食卓にでるご飯をあたりに、何の意識もなく普通に食べていますが、自分達で種蒔き、田植え、草取り、収穫、脱穀とお米が食糧になるまで、こんなにも大変だったのかと、初めて知る子供達がたくさんです。

食べ物を粗末にしたり、こぼしても平気でいた子が、食べ物に感謝する気持ちが生まれ、それが物を大切にすることに繋がります。さらには人の気持ちを大切に考えるようになるのです。

物が豊富にある現在ですが、この気持ちがある今の世間にはなさすぎるのではないのでしょうか。少なくとも、竹とんぼ学園にきた子供達は、そのことに気付き始めるのです。



☆ 新人登場

松川 誠二



駒大高校に勤務するようになって半年程してからのことです。偶然にある人と出会ったのですが、その人の話が私には大変意義深いものでした。

「……ですから私は一見誰とも上手に付き合っている様に見えます。全くの第三者からだと、自然と

人が周りに集まる様にさえ見えるんです。でも本当はそうではありません。私は人との接し方を知らないのです。冗談を言ったり時にはちよつと怒って見せたりもします。でも本音は決して出しません。誰に対しても壁越しに話をします。壁があるので敵はいませんが味方もいません。

つい最近まで気付かなかったんですよ。気付いてからの毎日は地獄です。自分は孤独だと思ふことは恐怖にも似ています。消えてしまいたいと思いました。一

度や二度ではありません。本当は何も考えたくないのに頭が勝手に考えるんです」

黙っているのが苦手な私は聞きたいことがたくさんありましたが、不思議と口を開きませんでした。口を開くより先に、彼女の言葉を自分に置き換えて考えていたのです。すると、自分にも当てはまる点があることに気付きました。私は人間が好きですから様々な場所に顔を出します。一見交際範囲は広いのですが、ところが「嫌われたくない」という気持ちが強いのでしょ

う。誰に対しても「ここが自分の情ない点」と考えている部分には決して触れられません。彼女の言葉を借りるなら正に「壁」を作っています。そしてこの壁は子供たちとの間にも存在しているに違いありません。自分では開いていたつもりでいたのですが、実際には閉じられていたのです。考えてみれば恐いことです。実に寒々とした世界が存在しているのですから。

随分と嫌な自分を発見しました。出来れば忘れてしまいたい自分です。ところが、もう一人の自分も発見しています。「よく気が付いた、僕もやるもんだ」と言いながらニヤリとしている自分です。本当に驚いてしまいました。

こんな新人教師です。様々な形で御指導宜しくお願い致します。

特別会員の移動

平成三年度退職者

専任 白浜 正幸(保健体育42年)
講師 煙石 英男(英語5年)

鈴木 純行(仏教4年)
民井 良治(数学4年)

戸田 貴之(国語3年)
長谷川光一(英語2年)

佐原 偉之(英語2年)
塚本 利男(英語2年)

小山 誠(英語2年)
専任 貫井(石橋和子)(9年)

平成四年度就任者

専任 松川 誠二(英語)

講師 奥野 光賢(仏教)

山崎 武夫(数学)

古谷 敬輔(保健体育)

岩崎 純子(英語)

須川重紀子(英語)

杉村 藍(英語)

高見 陽子(英語)

前田 章子(英語)

今野 晃秀(国語・9月)

事務 瀧 あつ子

平成四年度 役員総会開催

六月十六日(火)午後六時より、顧問および役員が参加し、二子玉川駅前「富士観会館」にて役員総会が開催された。

総会は浦敏之氏(十三期)の開会の辞で始まり、秋山会長は、四十周年記念事業に携わった役員の方々のねぎらい、又、より一層の協力を要請された。

続いて羽住名誉会長より学校の現況、将来計画の説明があり、大事業になるので、同窓会の一層の協力ををお願いしたいとの祝辞があった。

永年勤続者 三十年 河村光司、増田為三、広野義成、伏谷義知、幸前芳孝

二十年 小林惣八、宮健二、井上保広、須賀喜一郎、丸山精一、佐野文啓

十年 玉置和夫、の各先生方に記念品の贈呈があり、森本勝氏(四期)を議長に選出し、審議事項に入る。

一、平成三年度決算報告 吉野信行氏(二十八期)

一、平成三年度会計監査 報告 会計監査、浜田好晃

(四期)より、決算について監査の結果適正であることとの報告があり、承認。

一、平成四年度事業計画 審議、浦敏之氏より、同窓会規約の見直しと名簿整理を中心に行うこととしたいとの説明があり、承認。

一、平成四年度予算審議、会計 吉野信行氏より説明があり、原案通り承認。

一、その他 庶務 森本勝氏より四十周年記念事業の残務報告があった。

その後、席は懇親会に移り、永年勤続の先生方を囲み、なごやかに、盛會裡に終了した。